

分子科学研究所創立50周年記念式典 開催報告

去る2025年4月22日、創立50周年記念式典とそれに続く特別講演会・祝賀会を、岡崎コンファレンスセンター（OCC）にて開催しました。式典には、文部科学省研究振興局 塩見みづ枝局長、名古屋大学 杉山直総長、愛知県 大村秀章知事（代理：西三河県民事務所・藤井則彦所長）、岡崎市 内田康宏市長、総合研究大学院大学 永田敬学長をはじめ、約300名の方々にご臨席賜りました。来賓の方々からは、分子科学研究所のこれまでの研究成果に対する祝辞とともに、今後の更なる発展への期待が寄せられました。特別講演では、分子研の研究顧問であり、京都大学の理事・副学長でもある北川進 高等研究院特別教授に「The Magic of Small Spaces ナノ空間と材料化学が紡ぐ50年の物語」と題して講演を行って頂きました。式典前には、希望者を対象とした施設ツアーも行われ、計算科学研究センター、極端紫外光研究施設（UVSOR）、オープンミックスラボ（OML OKAZAKI/山手1号館）といった研究所の主要施設を巡りました（その他に、機器センターと装置開発室を対象としたフリー見学も企画しました）。参加者の皆様には、普段は立ち入ることのできない研究現場を間近に見学して頂き、分子科学研究の最先端に触れて頂くことができました。

50周年関連行事の準備は2023年の初めから開始し、足掛け2年で様々な企画を計画・実施してきました。上に紹介した記念式典・特別講演会・祝賀会の他に、記念ウェブサイトと記念基金の立ち上げ、特別対談の企画、記念パンフレットの作製、FMラジオ出演、一家に一枚「分子」ポスターの作製などです。ウェブサイトでは、これまで分子研から発信されてきた研究成果についてもまとめることができました。またこの後も、分子科学フォーラムなどが開催されますので、引き続き皆様にご参加頂ければと思っています。

今回の記念式典を開催するに当たっては、開催日を4月22日と決めましたが、これは分子研の設立が決まった法案の成立が1975年4月22日であったことに基づいています。「分子科学研究所 此処に創まる 1975・4・22」という石のプレートが残っていることから、この日が分子研の誕生日と言っているでしょう。ただ、実施にあたっては、4月に開催するという一方で、少し困難もありました。それは、招待する方々の異動が、4月1日に多いという事情です。文科省、大学関係、愛知県、岡崎市（市役所や警察署、消防署、近隣学校など）などの公共機関はどうしても4月に出る異動が直前まで分かりませんので、最終的な名簿を確定するのが直前になり、現場の皆さんにはご苦勞をおかけしました。

幸いなことに当日は、心配していたような天気の影響もなく、祝賀会ではOCCの中庭まで出て岡崎の地ビール、鰻、焼き鳥など、地元の食材を使った食事を楽しんで頂きました。また、渡辺所長が集めた日本酒の利き酒コーナーも好評だったようです。祝賀会では、東海国立大学機構 松尾清一機構長、岡崎信用金庫 大林市郎最高顧問、研究所の産学連携研究アドバイザーもお務め頂いているトヨタコンボン研究所 菊池昇代表取締役所長、そして吉原経太郎名誉教授からご祝辞を頂いたほか、岡崎出身のジャズシンガー 今岡友美さんのジャズ演奏もあり、参加者の皆様と楽しい時間を過ごすことができました。帰りには歴代所長の似顔絵が入った熨斗付きの海老煎餅や、分子の形のマグネットなどをお持ちいただき、分子研らしい式典と祝賀会になったのではないかと思います。

準備から当日までは、実に多くの方々のご協力を得ての実施となりました。施設見学も分刻みのスケジュールでバスを手配して、途中で遅れが出たらどうなることかと冷や冷やしましたが、幸い大きな混乱なく全ての行事を実施することができました。それ以外にも様々な作業があり、数え上げればきりがありません。この大変な作業を無事こなすことができたのは、ひとえに現場で動いて頂いた研究所メンバーのおかげであり、この場を借りて感謝したいと思います。あいにく、式典会場であった大隅ホールの着席人数に限りがあり、招待したくてもできなかった関係者が多くおられたり、分子研内でもPI以外のメンバーは中継画面を別会場で見学頂くということになってしまいましたが、この点はご容赦頂ければと思っています。

今回は、分子科学研究所の50年の歴史を振り返り、また次の50年に向けて決意を新たにすることができました。式典のみならず、この50年の間に分子研に関わって頂いた全ての皆様に感謝をして、開催報告とさせていただきます。

（実行委員長 山本浩史）